

2021年 10月 17日

主 日 礼 拝

①8:30am ②10:30 ③1:30pm ④7:00

司 会

②石井 秀人兄

奏 楽

祈 祷

②小山美枝子姉

賛 美

聖歌466番 ～聖霊の主よ～

詩篇23篇

聖書朗読

ヨハネによる福音書4章1～14節

特別賛美

①②ボーマン師夫妻／③④アフレル

メッセージ

「イエス様の伝道方法」

石井 潤 牧師

献 金

聖歌521番 ～栄光イエスにあれ～

祝 祷

お知らせ

〔司会者〕

賛 美

～生ける限り～

☆礼拝にお越しくくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆

《今週のお知らせ》

★本日も礼拝の恵みを心より感謝致します。今週も主の守り、祝福を祈ります！

☆今週の祈り会は ○早天祈祷会：明朝6時。◎祈祷会：木曜朝10時半～、
夜7時半～（大和の祈祷会に参加）。○準備祈祷会：土曜夜8時。

★今週木曜午後2時、上田市大手の石井兄姉宅にて家庭集会が行われます。

☆来週の日曜礼拝も4回行われます。〈司：白川達男兄／祈：石井秀人兄〉。

☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [10/17-24]

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	エレミヤ 3-4	5-6:15	6:16-7	8-9	10-11	12-13	14-15	16-17
新約	1 テサロニケ 2:6-20	3	4	5	2 テサロニケ 1	2	3	1 テモテ 1
チェック	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇

「イエス様の伝道方法」

～リバイバルは個人伝道からはじまる～

「あなたがたは、『刈り入れはまだ四か月も先のこと、夏も終わりにならなければ始まらない』と思っているようですね。だが、回りをよく見なさい。人のたましいの畑は広々と一面に実り、刈り入れを待つのみです。やがて、刈り入れをする人たちはたくさんの報酬をもらい、永遠のいのちに入るたましいを天の倉に納めます。その時、種をまいた者も、刈り入れをした者も共に、大いに喜ぶのです。」
ヨハネによる福音書4章35-36節〔リビングバイブル〕

先週は「良きサマリヤ人」のたとえ話からメッセージをさせていただきましたが、今週もサマリヤ人のお話しです。しかも、そのサマリヤ人の女性(※女性や子どもは当時の社会では人の数に入れられていなかった無視されていたような存在。しかもユダヤ人から軽べつされていたサマリヤ人)だった。イエス様の伝道方法は型破りな所から入ることがよくありました。しかし、その語り方は臨機応変で、個人的に入り込みやすい方法でした。砂漠で、疲れてのどが渴いていたイエス様。話しかけやすい状況でもあった。しかも、「水」というところから、「預言者」「神礼拝」「永遠のいのち」「永遠の救い」へと導くことをあらかじめ考えておられたようだ。

しかし、このサマリヤ人の女性がくらいついてこないともそれも成り立たなくなってしまう。しかし、イエス様の語り方はしつこいセールスの勧誘のようではなく、至って自然だった。救いというのは100%神様のお働きだが、そこに至るまでの道がある程度指し示し、聴き手に対して、興味を引き出し、自ら見出していかのように導かなければならない。それが本当に上手い。

そして、導かれたこのサマリヤ人の女性は、水を汲みに来たことをも忘れて、そこに水がめを置いたまま、街へ出て行って、イエス様のことをすべての人々に伝え始めます。イエス様は全く何もしていません。女性が勝手にイエス様が救い主だと伝道したのです。そして、その女性のインパクトある証の姿に人々がどんどんイエス様のもとへと押し寄せてきたのです。その惹きつけられ度は半端ない状況です。

そんな時に、お昼ご飯を買いに街に行っていた弟子たちが買い物を終えてイエス様のもとへ戻ってきました。イエス様がサマリヤの女と話している最中でした。民族問題を乗り越えて熱心に語り合っていた二人。その型破りな状況を弟子たちも目撃しました。そして、その女性が遣わされてから、今度は弟子たちに語りかけました。「あなたがたの固定概念を打ち破りなさい。収穫の時が来ているのです。しかし、働き人が少ないのです。さあ、どんどん人々の魂を収穫しなさい！」と。今の日本はどうでしょうか？もちろん、この聖書に書かれてあるようにそのまま神の御言葉を伝えることはできません。臨機応変に対処していかなければなりません。しかし、確実に魂は用意されています。頭で考えず、ありのままで、決めつけずに、人々に関わっていきましょう。そんな中で主が私たちを導き、用いられます。パウロはテサロニケの教会の人々に、「力と聖霊と強い確信」を持って福音を証しました。その結果、彼らに与えられた福音が力を表して、その地方全体に彼らの信仰が「響きわたった」と昨晚の祈禱会でみことばを味わいました。救いのメッセージは変わらずに私たちに与えられていますが、それが、力あるメッセージとしてこの時代に届いて行く必要を感じています。お祈りください！